

へき地複式教育の現状と課題

天内純一 平川市立小国小中学校

要旨

へき地複式教育研究のための資料にどのようなものがあるかを調べた。青森県教委、全へき連の印刷物の一覧表を作成することができた。また、資料から戦後のへき地校の変遷や実態を探った。多くの先輩により全へき連の組織作りが進められ、その活動は現在まで連綿と継続されてきたことがわかった。

へき地・複式教育の現状や課題、課題解決については、小国小学校の例をもとに、次の4つに絞って述べた。

- ①授業の充実
- ②語彙力、表現力、発表力の育成。
- ③社会や人、自然との関わりの深化
- ④教師の指導力

[キーワード] へき地教育 複式教育

1. はじめに

へき地複式教育の研究資料にはどのようなものがあるのか、不明な点が多かった。学校には県教委や全へき連の資料が何冊か残されているが、その全容がはっきりしない。そこで、研究のための資料について県教委や全へき連に問い合わせたり、実際に県総合学校教育センター(ライブラリー)や全へき連資料室を訪問したりして資料の一覧表づくりをしてみた。

また、へき地複式教育の戦後の歩みや変遷についても明確になっていないことが多かったので資料をもとに調べる必要があると感じた。

さらに、へき地複式教育が抱える課題を集約し、解決のためにどのような取り組みをすべきであるか、自校の子どもたちを中心に研究実践することとした。筆者の勤務する平川市立小国小学校は極小規模の学校で児童数は5人(1年生1名、5年生1名、6年生3名)である。この子どもたちの1年間の教育活動の一部を取り上げながら論を進めていくことにする。

2. 研究内容

- (1)へき地・複式教育研究のための資料調べをする。
- (2)へき地・複式教育校の変遷を辿る。(戦後を中心に。)
- (3)へき地・複式教育の課題とその解決方法を探る。
- (4)へき地・複式教育のための教材開発をする。

※今年度は、(1)(2)(3)を中心にする。

3. へき地複式教育研究のための資料

はじめに、へき地・複式教育研究を進めるにあたってどのような資料があるのか調

べてみた。筆者の勤務する小国小学校に保存されている資料をもとに、青森県内、全国へき地教育研究連盟、各都道府県等を調べた。結果を以下に記した。

(1) 青森県教育委員会が発刊した資料 (付録 1)

県教育委員会から指導資料が 1～35 集まで発刊されている。これらはすべて県内のへき地・複式校に配布されたと思われるが、保管されている学校は少ない。筆者の勤務する小国小中学校では第 1・2・3・15・16・34・35 集の 7 冊があった。同じ市内のへき地校に問い合わせたところ、34・35 集の 2 冊だけであった。この資料はへき地・複式教育の指導計画・実践事例等を細かく丁寧に記載したもので貴重である。これらが散逸していると、実践研究が受け継がれず、非常に残念である。

県総合学校教育センターライブラリーで調べたところ、5・6・7・8・10・11・15・16・17・19 集とそれ以降のものがあつた。最近統合により閉校した学校が多いが、そのような学校をまわって欠けている資料を入手する方法が考えられる。

(2) 全へき地教育連盟から発刊した資料 (付録 2)

第 1 次 5 か年計画が昭和 54 年からスタートしたと思われる。図書については昭和 60 年から刊行されている。これは有料で購入希望者に販売したものである。全国の学校か個人の所有になっている。

東京都にある全へき連の事務局で調べたところ、最近発刊された資料(平成 11 年以降)は在庫が存在したがそれ以前のものはない。国会図書館では閲覧できるのではないかということであつた。本校では 7 冊が保管されている。

(3) 文部科学省から発刊した資料 (付録 3)

小学校複式学級指導資料として 1955 年より、全教科の指導資料が発刊されている。(2 回) その後の資料として、第 I 集～第 V 集、また 1～52 号と番号を付されたものがあるが、この概要はよくわからない。

(4) 国立教育研究所 (付録 4)

(5) 全国へき地教育研究大会の紀要・資料

第 1 回全国へき地教育研究大会(北海道)から作成されてきたと思われるが、初期のものについてはよくわからない。

全国へき地教育研究大会は各支部、各ブロックが総力をあげて行うものである。そこで作成される研究紀要は幅広く多大の研究成果が盛り込まれている。筆者が参加させていただいた第 59 回鹿兒島大会の紀要は研究実践が細かに記載されたもので指導資料としては貴重なものであつた。また、本年度の第 60 回広島大会紀要も研究主題にそつて的確にまとめられている。

全部の紀要に目を通したい場合は、全へき連を通して各県の事務局に問い合わせれば可能である。

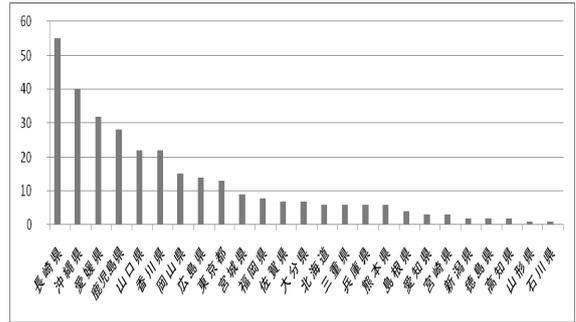
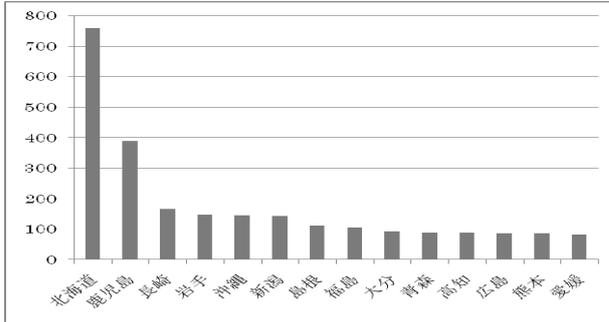
(6) 各都道府県の教育委員会が発刊した資料

へき地校数の多い北海道をはじめ各都道府県で指導資料や研究紀要が作成されている。都道府県教育委員会か各県のへき地・複式教育研究会に問い合わせるとわかる。全へき連が全国のへき地校のリンク集を作成しているところである(平成 23 年度完成予定)。また、全へき連の HP には各ブロック(全国 8 ブロック)の連絡先も示されていて、全国の情報や資料が手に入りやすくなっている。

(7) その他

書店や県立図書館で調べてみると、他の分野の教育書に比べてへき地・複式教育についての個人の著作等は少ない。

4. へき地校数の変遷

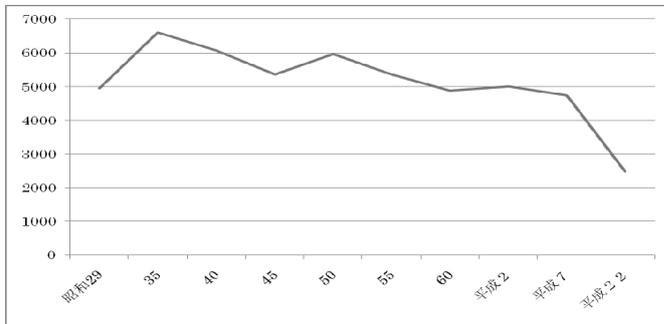


図Ⅰ 平成22年度へき地学校数（小学校）

図Ⅱ 都道府県別有人島数

基本調査票¹⁾によれば、平成22年度のへき地校数は図Ⅰのようになっている。第1回の全国大会が開催された北海道は圧倒的に多い。その次からは面積の広い県が登場しているが、鹿児島、長崎、沖縄と九州地方の県も多い。この理由を調べてみると、「離島」が関係していることがわかる。図Ⅱ都道府県別離島数（有人島）によれば、九州には有人島が多い。また、九州以外にも有人島を有する都道府県にへき地校の多いのがわかる。

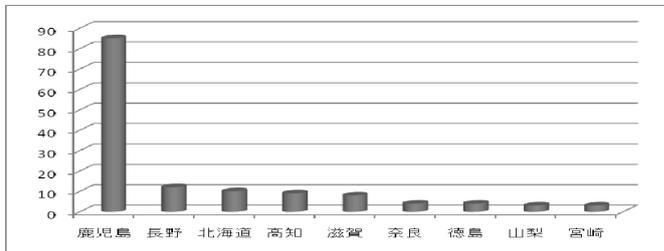
図Ⅲは昭和29年からのへき地校数の変遷を表したものである。最も多かったのは昭和35年で6607校（小学校）、平成22年度は半数の以下の2859校である。この傾向が続くと、へき地校は大幅に減少し、全国へき地教育研究連盟の組織維持が困難になると思われる。現に青森県の場合、学校統合が進みへき地・複式校は次々と



図Ⅲ へき地校数の変遷

閉校に追い込まれている。児童数の減少が大きな原因であるが、一方に複式教育解消に向けた統合も進められている。

しかし、前記したように全国では有人島数が多いことを考えると、へき地校がなくなることはあり得ず、全国へき地教育研究連盟の組織も継続されるものと思われる。



図Ⅳ 山村留学を行っている都道府県

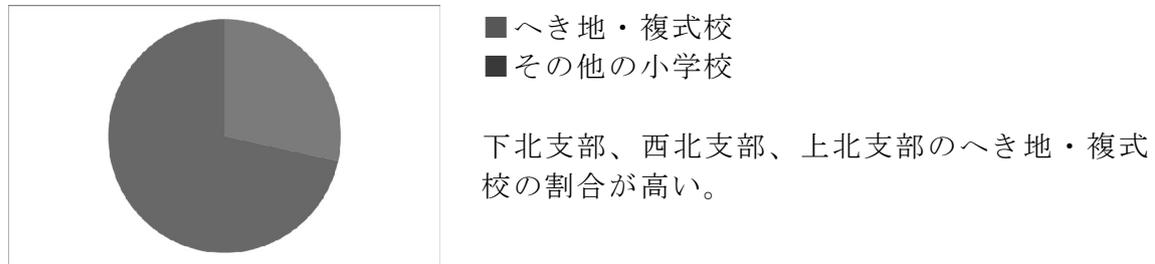
積極的に勧めている事例を目にすることができた。大規模・中規模の小学校の学区の子どもの中には、小規模校で学習したいという子もいるはずである。そのような子どもに合った学校に通学させるために便宜を図っているのである。同時にへき地の活性化を図ろうとしていた。図Ⅲに示した他に、2校ある都道府県は和歌山、山口、福岡、新潟、島根、群馬、沖縄、愛知。1校の都道府県は山形、三重、福島、兵庫、佐賀、

ところで、へき地教育の良さを見直し、へき地校の存続を図るための取り組みとして、山村留学を奨励している都道府県がある。県内に約400校のへき地校を抱える鹿児島県をはじめ25県にのぼる。

昨年霧島市で、行政が山村に通う子ども達の通学費を補助し、積

京都、愛媛、岩手となっている。この山村留学については青森県も一考する必要がある。

平成22年度の青森県の小学校数は約350校であるが、そのうちへき地・複式研究会に所属している小学校は99校である。へき地校の割合は次のようになっている。



図V 青森県のへき地・複式校の割合

5. へき地複式教育のあゆみ

へき地・複式教育のをまとめたのが次の表である。

表I へき地・複式教育のあゆみ

明治33年	・市町村立小学校教員加俸令により、へき地手当、単級手当、複式手当が導入された。これは厳格なものではなく、地方長官に裁量が任せられ不安定で額も少なかった。
昭和25年	・「小さな学校の経営の手引き」(文部省) ・単級・複式の教育研究の呼びかけが全国へ(滋賀県研究団体)
昭和26年	・小さな学校全国大会(岐阜県教委主催・文部省後援) ・全国的な研究団体を組織することが、緊急動議として出された。 各県ごとに組織作りをするという提案が可決された。
昭和27年	・第1回全国へき地教育研究大会・北海道帯広市(以後、毎年全国大会開催) ・全国から千人を超える教師が参加。北海道関係者を含めると二千人が参加。 ・全国へき地教育研究連盟(全へき連)結成 ・我が国最初の「へき地教育宣言」(十勝原頭の近い)
昭和28年	・全国へき地教育振興促進期成会(全へき振)が誕生。北海道知事が会長。 ※全へき振は行政、全へき連は教師の団体である。
昭和29年	・へき地教育振興法制定
昭和33年	・全へき連 複式学級用教科書研究委員会開設
昭和34年	・へき地教育振興法 施行規則(省令)制定 ※へき地の級を点数によって定めた。
昭和40年	・複式教科書編集開始
昭和42年	・全国へき地新聞 第1号発刊(無償)
昭和44年	・第19回全国大会・青森
昭和47年	・へき地指定基準の一部改正
昭和57年	・全へき連30周年記念式典
平成元年	・へき地教育振興法施行規則の一部改正
平成3年	・全へき連40周年記念式典
平成13年	・全へき連50周年記念式典

昭和25年に始まる全国組織化の動きは、2年後の第1回全国へき地教育研究会北海道大会で実を結ぶことができた。当初は行政が積極的に関与し、全国へき地教育振興促進期成会のように都道府県の知事が会長を務める組織ができた。また、各支部も作られ、責任者には行政関係者が名前を連ねた。

へき地・複式教員を中心とした全へき連の組織は昭和27年より連綿として引き継がれ来年度(平成23年)に結成60周年の記念式典を迎えることになっている。現在事務所を東京都の文部科学省近くに構えて活動の拠点としている。

複式学級の児童数について、その変遷を表したのが表IIである。

表Ⅱ 学級編成基準改正の経過

	1958年	63年	69年	74年	80年	93年
同学年の児童で編成する学級	50人	45	45	45	40	40
2学年の児童で 〃	35	25	22	20	18	16
3学年の児童で 〃	35	25	15			
4学年の児童で 〃	30	25				
すべての学年の児童で 〃	20	15				

学級の児童数が20人以下であれば、1～6年までが全部混じっていても一つの学級とされた時代があったことに驚かされる。1969年には全校で1学級という編成は回避される。4学年の児童で編成する学級は1969年から解消、3学年の児童で編成する学級は1974年から解消された。

2学年以上の児童と一緒に学習するという現在の複式学級と同じ形態の限度人数は、1958年には35人と定められていたが、次第に数を減じて現在は16人となっている。

5-1 へき地・複式教育とへき地教育振興法

へき地教育への取り組みが本格化したのは、昭和29年にへき地教育振興法が制定されてからである。その内容は主に次の点である。

(1)目的 (2)へき地の定義 (3)市町村、都道府県、国の任務 (4)国の補助

この中で、留意すべきは(3)である。ここでは、任務の具体的な内容として、市町村には①教材・教具の整備と教員の研修②教員の住宅など福利厚生③体育・音楽等の施設④職員・児童生徒の健康管理⑤児童生徒の通学、都道府県には、①へき地教育に適した教材・教具についての調査・研究②へき地教員養成施設③市町村への指導・助言・援助、国には必要な調査・研究と、地方公共団体に対して指導・助言を定めている。

また、昭和34年へき地教育振興法改正を受けて、へき地教育振興法施行規則（文部省令）が出され、抽象的だったへき地の条件に基準が示された。地理的条件、交通機関などにより基準点数表が作成され、点数によって1級から5級の等級に指定された。

ところで、都道府県に「へき地教員養成施設の設置」が科せられたが、実施は十分でないと思われる。大学に教員養成コースを設置したり、附属小学校に複式教育研究のための特別学級を設置したりしている都道府県は少ない。へき地教育資料第50号⁷⁾によれば、複式学級をおいている附属小学校は次のところである。

- ・弘前大学附属小・岩手大学附属小・山形大学附属小・茨城大学附属小
- ・金沢大附属小・新潟大学附属小・和歌山大学附属小・岡山大学附属小
- ・島根大学附属小・広島大学附属小・高知大学附属小・鹿児島大附属小

この中に青森県の弘前大学附属小学校が名前を連ねている。全国的にみても複式教育への取り組みは早い。昭和23年に弘前大学附属小学校を会場として研究会が開催されている。これは突出した取り組みであり先進的である。（正式に第1回県大会として位置づけられているのは翌年の上北大会である。）

6 へき地複式教育の課題と対策

6-1 へき地複式教育の課題

へき地の子どもの一般的な特性として、へき地複式ハンドブック²⁾に次のようにあげられている。

1. 刺激の少ない単調な生活や家庭的な雰囲気为学校生活を反映し、依頼心が強く、積極性、計画性が乏しい。
2. 語彙に乏しく表現力が不足しており、発表意欲が低調。
3. 思考や発想の多様性、論理性が不足。
4. 集中力や決断力が弱く、学習意欲や学習技能が不足。
5. 観察力に乏しく感動や疑問を持つことがすくないため、学習の深まりや発展をあまり期待できない。

また、へき地の学校における三特性として、「へき地性」「小規模性」「複式形態」があげられている。これらの特性の長所と短所を、筆者なりにまとめてみると次のようになる。

表Ⅲ 「へき地性」「小規模性」「複式形態」の長所と短所

	長 所	短 所
へき地性	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境に恵まれ、のびのびと育つ。 ・地域の人々との触れ合いの中で、一人ひとりが大切に育てられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた社会の中で、限られた人と係ることが多い。 ・情報が不足し、幅広く思考し判断することが難しい。
小規模性	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人ひとりを把握し、生活指導が徹底する。思いやりやいたわりの心が育つ。 ・学習指導がきめ細かに行われ、基礎基本が身に付く。 ・一人ひとりに適した体力作り、健康安全教育が行われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな個性を持った子ども達の中で対人関係を深め合うことが難しい。 ・授業の中で多様な考えが出たり、議論が活発化したりすることが少ない。 ・体面で他と競い、高め合う意欲が低い。
複式形態	<ul style="list-style-type: none"> ・間接指導の時間に教師の手が離れるので、自力解決の力が育つ。 ・複数の学習が同じ教室内で行われ、子どもは学習の連続性を意識できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・直接指導の時間が少ないので、学習全般に教師の目が行き届かない。 ・教師の教材研究の程度や指導力によっては学習が浅くなる。

6-2 教師にとっての複式教育

大規模・中規模校で大人数を相手にしている時は、雑で抽象的な分かりづらい発問をすることも珍しくない。それでも、能力的にすぐれた子がいたり、情報通の子がいたりして、一部の子による話し合いが行われ学習は形式的には進む。しかし、少人数の複式ではそうはいかない。教師の発問・指示が適切でないと、沈黙が続いたり、活動が滞ったりして一向に進まない。教師は一人ひとりの子どもをしっかりと見据えた授業を行わなければならない。つまり複式校では「子どもの心を読む」ことの大切さを実感させられるのである。子どものつまずき、思考の流れを読みとり、それらに適応した指導を心がけなければならないので、教師の大事な能力である「児童の実態を把握する力」が育つ。

また、教材研究も深化する。複数の教材を組み合わせ、学習内容の系統性を考えたり配列を変えたりする必要がある。幅広く教材を見つめ直すことになるので、教師の教材研究の力が伸びる。

さらに、複式教育では指導者が常に傍らについているわけではないので、子どもは課題を自力で解決する場面が多くなる。学習はもともと「自力解決」が主であり、疑問点を指導者に聞くというのが本来の姿である。複式教育はこの姿に近いと言える。そこで、教師は教育の本来の目的である「自力解決を目指す子」を育てることになるのである。

このように考えてみると、少人数・複式教育の短所は長所になる。短所を逆手に取れば、大人数の単式学級では育成されない教師の教育力が伸びるのである。

7 へき地複式教育課題解決の取り組み（小国小学校）

7-1 小国小学校の課題

へき地・複式ハンドブックにあるへき地・複式校の課題をもとに小国小学校の課題を考えてみると以下ようになる。

- ・授業の中で多様な考えが出たり、議論が活発化したりすることが少ない。
- ・語彙力、表現力、発表力の不足
- ・限られた社会の中で、限られた人と係わることが多い。
- ・情報が不足し、幅広く思考し判断することが難しい。
- ・いろいろな個性を持った子ども達の中で対人関係を深め合うことが難しい。
- ・体力面で他と競い高め合う意欲が低い。
- ・教師の教材研究の程度や指導力によっては、学習が浅くなる。

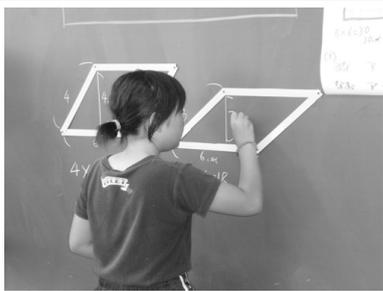
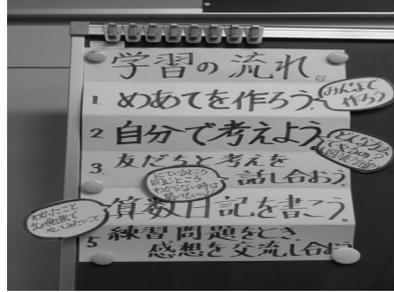
7-2 小国小学校の取り組み

課題解決のために、主として次の4点を中心に課題解決に取り組んだ。

- ①授業の充実を図る。
- ②語彙力、表現力、発表力を育てる。
- ③社会や人、自然との関わりを深める。
- ④研修の機会を増やし、教師の指導力を向上させる。

7-2-1 授業の充実

授業の充実として、①教材・教具の工夫②学習環境の工夫③発表の場の工夫④指導体制の工夫⑤ノート指導の工夫などに取り組んだ。具体的な内容の一部を次に載せた。

		<ul style="list-style-type: none"> ・一人ひとりに合った教具を準備しひとり学びができるようにする。 ・導入で、身近にある具体物を使い、興味・関心を持続させながら問題解決に取り組ませる。 ・間接指導の前にしっかりと指示を出す。
		<ul style="list-style-type: none"> ・学習過程を提示することによって、見通しをもって学習を進めることができるようにする。 ・学習環境を工夫し、前時からの流れがわかるようにする。 ・自力解決にも役立てる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・指導体制の工夫 ゲストティーチャー 学習支援員の活用 ・学習によって一時的に 学級を組み替える。 ・校長、教頭も授業を担 任する。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ノート指導の工夫 ・構成や内容の指導 ・自分の考えや友だちの 考えを取り入れたノー トづくり。
		<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えや意見を友 だちに発表する場を工 夫し、自分の考えを深 めたり、間違いに気づ いたりできるようにす る。 ・授業の最後に感想交流 の時間を設ける。

7-2-2 語彙力、表現力、発表力の育成

語彙の不足を補うために朝の読書を実施した。毎日15分間、全校で行う。朝の読書は語彙力を高める他にも大きな教育効果が期待できる。朝の読書の詳細については前号⁵⁾参照。

また、文を書く機会を増やした。特に平川市、南地方などで募集している文集等への応募を積極的に行った。今年度は感想文集「心の目」に出品したが、5・6年生の各1名(計2名)が最優秀賞を受賞した。指導の成果である。

発表力の育成は日々の授業や学校活動の中で行うが、少人数なので、あらゆる機会ですべての生徒が発表する時間を確保することができた。対外的な行事での発表の場も大切にしたい。一例として、平川市で行われる児童生徒会サミットがある。市内の全部の小中学校が一同に会して自校の紹介をしたり、テーマを決めて話し合ったりする活動である。このような場を利用して、自校の紹介では、発表の内容、構成、態度、声量等を子どもに考えさせ、細かな指導をした。その結果、大人数の中でも要点を押さえてしっかりと発表し自信を持たせることができた。

その他、東奥日報が募集した「子ども新聞記者」に5・6年全員が応募し採用された。

・小国城址と八幡宮

・小国町内を縦断する水路橋と一の渡ダム

- ・小国小中学校の歴史
- ・南八甲田（小国）の野菜作り

自分でテーマを決め、関係者にインタビューして書き上げた原稿が、活字となって紙面を飾ることによって、書くことへの関心を深めるとともに、自信を持たせることができた。

また、地域人材を活用して和太鼓演奏に取り組みさせた。一生懸命練習した成果を発表する機会を多く持った。

- ・南へき地・複式教育研究会のアトラクション
- ・文化祭
- ・平川市音楽発表会
- ・閉校式アトラクション

このように音楽活動等身体を使った表現力育成も大切にした。

7-2-3 社会や人、自然との関わりを深める

へき地校が抱える大きな悩みが、限られた社会の中で限られた人と係わることが多く、対人関係を深め合うことが難しいことである。また情報が不足し、幅広く思考し判断することが難しいこともあげられる。このための対策として数多くの人々との交流の場を設けることとした。次のような取り組みをした。

- ・発明協会の方を招いて子ども・保護者一緒のホバークラフトづくり
 - ・隣接校と一緒に読み聞かせ会・プール学習・スキー教室・津軽弁CD作り
 - ※読み聞かせは3回実施
 - ・ゲストティーチャーを招いての学習（米作り・水路橋・一の渡ダムの説明）
 - ・名人を招いて山菜採り
 - ・中山間地組合や地域の方々と餅つき会
 - ・福祉施設との交流
 - ・卒業した方をお呼びして「ようこそ先輩」
 - ・外国語支援員を活用した外国の行事体験（ハロウィン）
 - ・ALTと地域人材を活用した「チキンヌードル作り」「蕎麦打ち体験」
 - ・八戸市の小学校と一緒に海浜学校
 - ・弘前大学へき地教育サークル「クローバー」と連携
 - （廃品回収・新入生を迎える会・体育祭・夏のキャンプ・七夕祭り
 - 文化祭・誕生日プレゼント・宵宮・入学式・閉校式・卒業式）
 - ・市内カルタ大会（津軽弁）に参加
 - ・アナウンス講習会に参加
 - ・南へき地校交流会に参加
 - ・その他
- 「舞台芸術」に隣接校三校参加



シャボン玉の中から見た風景



子ども・大学生・保護者・教職員



和太鼓の演奏



ようこそ先輩

これらの活動を通して、数多くの人々との関わりを深めることができた。情報量も多く子どもが幅広く思考する素地ができた。

7-2-4 教師の指導力向上

学校が抱える課題解決に欠かせないのは教師の指導力である。これをどのようにして高めるか。まず、校内研による内部の高め合いがあげられる。これには市教委、教育事務所の指導主事を要請して強力な指導をお願いした。本年度は南へき地・複式教育研究会を本校で開催したため、教材研究に力を注ぐことができ研修が深まった。

さらに、指導力の向上を図るために対外的な研修会への参加も積極的に行った。平成22度の県内外の研修参加は以下のようになっている。

- ・ 県へき地・複式教育研究会青森大会（青森市）
- ・ へき地東北ブロック研修会（山形・仙台）
- ・ 全国へき地・複式教育研修会（東京都）
- ・ 南へき地・複式教育研究会（小国小）
- ・ 中南複式担任研修会（五所川原市）
- ・ 道徳教育研究協議会（中南教育事務所）
- ・ 学校と地域の連携ゼミナール（中南教育事務所）
- ・ 外国語活動中核教員研修会（中南教育事務所）
- ・ 特別支援教育に関する研修会（中南教育事務所）
- ・ 学校経営講座（市教委）
- ・ 教頭研修講座（県総合学校教育センター）
- ・ 研修主任講座（県総合学校教育センター）
- ・ 国語指導講座（県総合学校教育センター）
- ・ 弘前大学附属小学校公開研究会
- ・ 教育の鉄人・杉淵学級公開研究会（東京都・綾瀬小学校）
- ・ 奈良女子大附属小学校公開研究会
- ・ キャリア教育推進フォーラム（東京都・文部科学省）

研修会への参加を奨励した場合、次のような配慮が必要である。まず、担任が不在の場合の学級の授業をしっかりと行うこと。とかく担任が不在の場合、隣の学級との合同学習、読書、プリント学習などが行われる。これでは授業の進度が遅れ、学力低下にも繋がりがかねない。これに対処するため、4月から校長・教頭が専科として学級に入り、子どもの実態を把握するとともに、日頃より二つの学級の授業を参観して、主要教科の進捗を知っておくこととした。担任が不在の場合は、自習プリントなどを行うのではなく、積極的に授業を進めることとした。

また、研修会に参加した成果が本人だけのものとなり、教職員全体で共有することが少なかったため、報告会を設定し全体で高め合うようにした。貴重な時間と旅費を使用して得た知識や情報は全体のものであることを再確認した。

8 小規模校だからできること（小国小学校の場合）

これまで述べてきたことと重複する部分もあるが、小規模校だからできることをまとめと次のようになる。

①学力の保証

一人ひとりを大事にした学習指導が行われ、子どもの能力が最大限に引き出される。

②柔軟性のある行事

学校行事計画は年度当初に立てられるので、いざ実施という段階で児童の実態に合わない場合が出てくる。その場合でも、小規模校であれば見直しや変更が容易である。変更による全体への影響が少ないので、常に児童にとって最善の方法をとることができる。例として、急遽決まった三内丸山遺跡見学や種差少年自然の家の宿泊学習、隣接校との合同読み聞かせ会（3回）等がある。

③学校や地域の特色を生かした行事

- ・山菜採り
- ・田植え、稲刈り後、地域の方との会食会

少人数のため、近くの山への移動が短時間ですんだ。

また、米作り等の大きな仕事の後には働いた人たちが一緒に食事をするという慣習がある。小国の場合、子どもの数が少ないので、地域の方々との会食もさせて戴いた。昔ながらの慣習を肌で感じ、地域の人々と深い交流をすることができた。



田植え



もちつき会

④作品展、〇〇大会等への全員応募

- ・感想文集「心の目」に三人が応募し、二人が最優秀賞、一人が入選となった。また、全校の大多数が入賞したということで、最優秀学校賞を受賞した。この背景には、応募に際して細かな指導ができたということがある。こ
- また、津軽弁カルタ大会、アナウンス講習会、市主催の児童生徒会サミット等が開催されたが、小国小学校の場合「代表」だけでなく、ほとんど全員が参加することが多かった。

⑤地域教材を生かした学習

地域には社会科、理科、生活科をはじめ総合的な学習や行事で活用できる素材が多数ある。それらをより有効に活用したり、より実感的に捉えさせたりするのは、少人数ほど良い。

小国小学校では、「東奥子ども新聞記者」に任命されたという機会を捉えて、5・6年生の全員に郷土（小国）の歴史や産業について調べさせてみた。この活動を通して問題解決の能力も高まった。

- ・小国城址と八幡宮

鎌倉時代の築城ではないかと推測される小国城址と、八幡宮の由来を関

係者にインタビューして調べる。

- ・小国町内を縦断する水路橋と一の渡ダム
昭和6年、機会や道具の十分でなかった時代に総延長6kmの水路橋が建設されている。その大部分は山をくり抜いたトンネルである。
- ・小国小中学校の歴史
少人数ながらバレー、ソフトボール、卓球、バドミントンで輝かしい成績を残してきた先輩の足跡を辿る。
- ・南八甲田（小国）の野菜作り
関東地方をはじめ県外に数多く出荷されている南八甲田の野菜。野菜作りや運搬の秘密を探る。

⑥活発な交流活動

弘前大学へき地教育サークルとの交流を始めて3年目。子どもの人数・実態、地域の実態等を総合的に判断して最適な環境にある。年間を通して10以上の活動に参加して戴いている。

9 まとめと今後の課題

へき地複式教育研究のための資料についてまとめるとともに、資料を調べてへき地校の変遷や実態を探ることができた。さらに資料を深く読み込むとともに不明な資料の収集に取り組むことも必要であると感じた。統合し閉校した学校に残された資料等を収集する機会を持てたら素晴らしいと思う。

へき地・複式教育が抱える課題と解決を以下の4つに絞って述べた。

- ①授業の充実
- ②語彙力、表現力、発表力の育成。
- ③社会や人、自然との関わりの深化
- ④教師の指導力

小国小学校の取り組みはある程度の成果を上げたが、課題の全面的に解決には到っていない。少人数の利点を更に探り研究を深めると共に、新たな視点から考え出した活動に取り組む必要があると考える。

今回の論文は少し幅を広げすぎたため網羅的なものとなった。今後の取り組みとして教材研究と授業論に焦点を絞って研究を進めたいと考えている。

参考・引用文献

- 1) 平成22年度基本調査集計表(2010);全国へき地教育研究連盟
- 2) へき地複式ハンドブック(昭和60年);全国へき地教育研究連盟
- 3) 平成17・18年度指導資料集第33集(2008);へき地・複式教育ハンドブック(一般編),青森県教育委員会
- 4) 平成19・20年度指導資料集第34集(2009);へき地・複式教育ハンドブック(事例編),青森県教育委員会
- 5) 天内純一(1998);問題解決能力を育てる総合的な学習Ⅱ,弘前大学教育学部・教育実践研究指導センター研究報告書第6号
- 6) 平成6年度指導資料第27集;へき地・複式教育ハンドブック(一般編),青森県教育委員会
- 7) へき地教育資料第50号(平成4年);文部省小学校課,PP114,大学におけるへき地複式学級指導に関する研究校一覧・平成4年現在
- 8) へき地教育資料第51号(平成5年);文部省小学校課

- 9) 小学校複式学級指導資料(平成6年);文部省,教育出版
- 10) 斉藤泰雄(2004);国際教育協力論集,第7巻第2号,広島大学教育開発国際協力センター
- 11) 有馬毅一郎(2002);へき地・複式教育の基礎的研究-社会科を中心に-,黒潮社
- 12) 全国へき地教育連盟;http://www4.ocn.ne.jp/~x59y91/
- 13) 北海道へき地・複式教育研究連盟;http://hekiken.kus.hokkyodai.ac.jp/dofukuren/index.htm
- 14) 「わが国のへき地教育」(昭和36年);文部省,へき地教育白書(文部省)
- 15) 小学校複式学級の指導事例;青森県教育委員会
 - ・第1集 昭和41年度 小学校複式学級指導計画例 社会・理科 (同内容指導)
 - ・第2集 昭和42年度 小学校複式学級指導計画例 図工 (同内容指導)
 - ・第3集 昭和46年度 小学校算数複式学級単元別指導計画例シート付 (順則)
 - ・第15集 昭和57年度 小学校複式学級の指導実践事例 国語・算数 (順則)
 - ・第16集 昭和58年度 小学校複式学級の指導実践事例 社会科・道徳 (順則)
- 16) 平成22年度小国小学校研究集録(2010);小国小学校
- 17) 平成22年度第46回南地方へき地・複式教育研究会開催要項・公開授業学習指導案(2010);南地方へき地・複式教育研究会
- 18) 平成22年度研究紀要第24号(2010);南地方へき地・複式教育研究会
- 19) 平成22年度研究紀要(2010);青森県へき地・複式教育研究会

付録1 青森県教育委員会が発刊した資料

昭和41年度	指導資料第1集	小学校複式学級指導計画例 社会・理科 (同内容指導)
昭和42年度	指導資料第2集	小学校複式学級指導計画例 図工 (同内容指導)
昭和46年度	指導資料第3集	小学校算数複式学級単元別指導計画例シート付(順則)
昭和46年度	指導資料第4集	小学校複式学級指導計画例 国語・音楽 (順則)
昭和47年度	指導資料第5集	小学校複式学級指導計画例 理科・図画工作(理科は順・変の両方)
昭和48年度	指導資料第6集	小学校複式学級指導例 特別活動
昭和52年度	指導資料第7集	小学校複式学級の指導事例 国語・社会・算数・理科(順則)
昭和53年度	指導資料第8集	小学校複式学級の指導事例音楽・図画工作・国語・社会・理科(順則)
昭和54年度	指導資料第9集	複式学級担任必携(はじめて複式学級を担任する教師のために)
昭和54年度	指導資料第10集	小学校複式学級の指導事例 国語・社会・算数・理科 (順則)
昭和55年度	指導資料第11集	小学校複式学級の指導事例 国語・社会・算数・理科・道徳(変則)
昭和55年度	指導資料第12集	複式学級担任者ハンドブック
昭和56年度	指導資料第13集	小学校複式学級の指導事例 音楽・図画工作・家庭 (順則)
昭和56年度	指導資料第14集	漢字学習の友
昭和57年度	指導資料第15集	小学校複式学級の指導実践事例 国語・算数 (順則)
昭和58年度	指導資料第16集	小学校複式学級の指導実践事例 社会科・道徳 (順則)
昭和59年度	指導資料第17集	小学校複式学級の指導実践事例 理科(順則)音楽(合同授業)図画工作(合同授業)体育(合同授業)
昭和60年度	指導資料第18集	複式学級担任者ハンドブック
昭和61年度	指導資料第19集	小学校複式学級の指導実践例(学級会活動・学級指導)
昭和62年度	指導資料第20集	小学校複式学級の指導実践例(理科・社会)
昭和63年度	指導資料第21集	へき地・複式ハンドブック
平成元年度	指導資料第22集	ビデオで見る「複式学級の指導実践例(算数)」3巻
平成2年度	指導資料第23集	ビデオで見る「複式学級の指導実践例(国語・説明文)」3巻
平成3年度	指導資料第24集	ビデオで見る「複式学級の指導実践例(国語・物語文)」2巻
平成4年度	指導資料第25集	ビデオで見る「複式学級の指導実践例(生活)」
平成5年度	指導資料第26集	ビデオで見る「複式学級の指導実践例(生活)」
平成6年度	指導資料第27集	へき地・複式教育ハンドブック(一般編)
平成7・8年度	指導資料第28集	へき地・複式教育ハンドブック(事例編)
平成9・10年度	指導資料第29集	小学校複式学級の理科指導(教科編)
平成11・12年度	指導資料第30集	小学校複式学級の社会科指導(教科編)
平成13・14年度	指導資料第31集	小学校複式学級の算数科指導(教科編)
平成15・16年度	指導資料第32集	小学校複式学級の国語科指導(教科編)
平成17・18年度	指導資料第33集	へき地・複式教育ハンドブック(一般編)
平成19・20年度	指導資料第34集	へき地・複式教育ハンドブック(事例編)
平成21・22年度	指導資料第35集	へき地・複式教育ハンドブック(授業実践編)

付録2 全へき連研究図書刊行一覧 昭和60年以降

1. 昭和60年 いつでも、どこでも役立つへき地・複式教育ハンドブック
2. 昭和61年 第2次5か年研究推進計画へき地教育双書 I
『へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学校・学級経営』
3. 昭和62年 へき地教育双書 II『へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学級指導（指導計画）』
4. 昭和63年 へき地教育双書 III『へき地・小規模・複式学校の特性を生かした学級指導（指導方法）』
5. 平成元年 第3次5か年研究推進計画新しいへき地指定の基準の解説
6. 平成3年 へき地教育40年—へき地教育30年史追録—豊かな心を育てる教育 I
『郷土を愛する心を育てる教育—へき地・小規模・複式学校の特性を生かして—』
7. 平成5年 豊かな心を育てる教育 II『21世紀を拓く生活科と選択教科の創造』
8. 平成6年 第4次5か年研究推進計画
9. 平成7年 これだけは知っておきたい『へき地教育ガイドブック』
10. 平成8年 へき地教育シリーズ I 『へき地・複式小規模学校の学校・学級経営』
11. 平成9年 へき地教育シリーズ II 『みんなでつくるへき地教育』
～へき地・小規模・複式学級を有する学校の国語、算数・数学マルチメディア～
12. 平成10年 21世紀を拓く教育シリーズ I
『学習指導方法の工夫・改善』～へき地・小規模・複式学級を有する学校の実践的事例～
13. 平成11年 第5次5か年研究推進計画21世紀を拓く教育シリーズ II
『効果的な学習指導と学校・学級経営』～へき地・小規模・複式学級を有する学校の実践的事例～
14. 平成12年 21世紀を拓く教育シリーズ III
『へき地・複式小規模学校Q&A』～新学習指導要領に添う新しい研究推進のために～
15. 平成13年 へき地教育50年—へき地教育40年史追録—21世紀を拓く教育シリーズ IV
『ふるさと発「生きる力」を育む教育の創造』へき地・複式・小規模学校の課題解明へのアプローチ
16. 平成14年 全国はひとつ『全国へき地学校便覧』
17. 平成15年 新しい時代を拓く心の教育シリーズ I
『生きる力・確かな学力を育む教育の在り方』～へき地・小規模・複式学級を有する学校の地域に根ざしたきめこまやかな実践事例集～
18. 平成16年 新しい時代を拓く心の教育シリーズ II
『ふるさとに立ち、たくましく生きる力を育む教育の在り方』～へき地・小規模・複式学級を有する学校の地域に根ざした学校・学級の実践事例集～
19. 平成17年 新しい時代を拓く心の教育シリーズ III
『個性を生かし、確かな学力を育む教育の在り方』～教育に展望を持つへき地・小規模・複式学級を有する学校の自ら学ぶ態度・能力を身につけ、共に高まっていく学級指導の実践事例集～
20. 平成18年 新しい時代を拓く心の教育シリーズ IV
『家庭・地域社会と共に豊かな子どもの心を育む教育の在り方』～教育に展望を持つへき地・小規模・複式学級を有する学校の地域に根ざした特色ある教育活動～
21. 平成19年 19年度版へき地・複式・小規模学校の実践事例集
ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く心豊かな子どもの育成
22. 平成20年 20年度版へき地・複式・小規模学校の実践事例集
ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く心豊かな子どもの育成
23. 平成21年 21年度版へき地・複式・小規模学校の実践事例集
ふるさとに誇りを持ち、新しい時代を拓く心豊かな子どもの育成
24. 平成22年 22年度版へき地・複式・小規模学校の実践事例集（第7次長期5か年研究推進計画1年次ふるさとでの学びを生かし、新しい時代を築く心豊かな子どもの育成

付録3 文部科学省から発刊されている資料

- | | |
|---------------------------|-------------------------|
| 1. 小学校複式学級指導資料 算数編 1955 | 2. 小学校複式学級指導資料 理科編 1955 |
| 3. 小学校複式学級指導資料 家庭編 1955 | 4. 小学校複式学級指導資料 音楽編 1957 |
| 5. 小学校複式学級指導資料 図画工作編 1957 | 6. 小学校複式学級指導資料 国語編 1960 |
| 7. 小学校複式学級指導資料 社会編 1960 | 8. 小学校複式学級指導資料 生活編 平成6 |
| 9. 小学校複式学級指導資料 理科編 平成6 | 10. 小学校複式学級指導資料 算数編 平成7 |
| 11. 小学校複式学級指導資料 家庭編 平成7 | 12. 小学校複式学級指導資料 音楽編 平成7 |
13. へき地教育資料第IV集 複式学級におけるガイダンス 文部省 1995 明治図書
※第I集～第III集については不明 第V集以後についても不明
14. へき地教育資料第45号 昭和62年 株式会社じんのう
15. へき地教育資料第50号 平成4年 文部省小学校課編集
16. へき地教育資料第51号 平成5年 文部省小学校課編集
※1～44号 52号以後については不明

付録4 国立教育研究所

1. へき地教育の特性に関する総合的研究 昭和63年